

< その他、取組に特徴のある事例 >

めん羊飼育を通じて世代間の連携強化！

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	ひがししらかわくんさめがわむら なかざわ 福島県東白川郡 鮫川村 中沢			
協定面積 20ha	田(100%) 水稲・牧草	畑	草地	採草放牧地
交付金額 317万円	個人配分			50%
	共同取組活動 (50%)	担当者活動経費(役員報酬・会議費等)		6%
		水路・農道等の維持管理等経費 多面的機能の発揮に関する経費		10% 34%
協定参加者	農業者 24人			

2. 取組に至る経緯

当集落は一期対策から本制度を活用してきたが、標高が高く山間部に農地が点在するなど営農条件が不利な地域であること等から持続的な農業振興には至っていない。

そこで現対策では、水稲における高付加価値型農業の実践として「エコファーマー栽培」に取り組み、減農薬・低化学肥料で生産した米の販売により収益性の向上を図ることとした。

3. 取組の内容

鮫川村では村内全協定で構成する「鮫川村中山間協定間協定協議会(以下、「協定間協定」)を設立、村ぐるみでサポート体制を作ることによって他集落との連携を可能にし、各協定での取組を推進している。協定間協定では、各協定集落のモデル化も実施しており、これを利用して当集落では「めん羊」を導入、遊休水田を放牧地とし耕作放棄地の解消を図るとともに、集落全体で飼養管理することで子供からお年寄りまでが気軽に触れあえる地域を目指して取り組んでいる。



遊休農地に放牧しためん羊



手作りの看板と遊休農地を再生した放牧地

[集落の将来像]

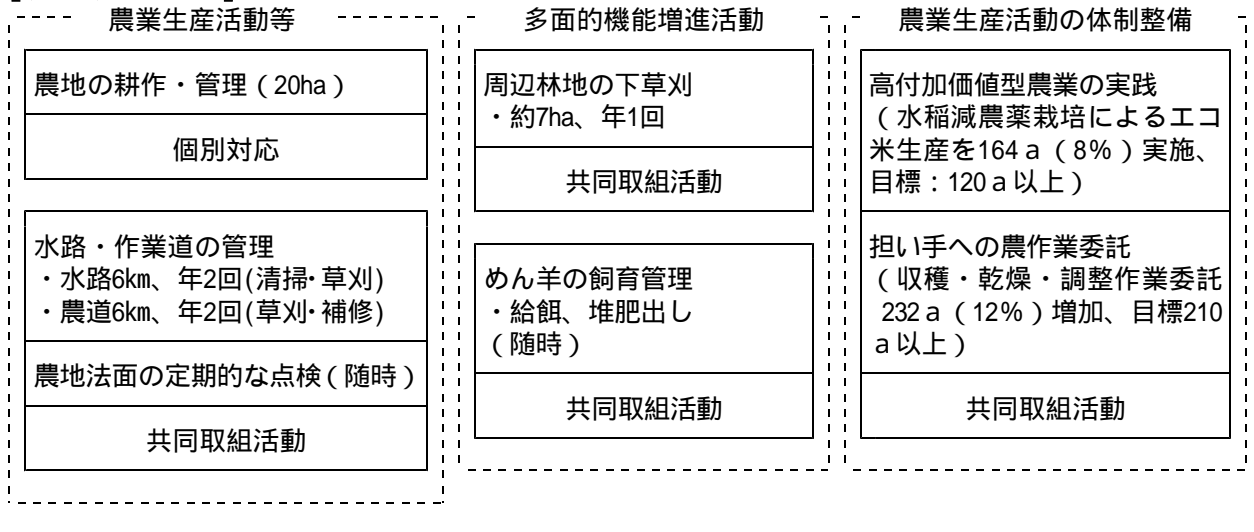
農産物の付加価値を高めるため、エコファーマー認証者による栽培を行い、農作業の委託により作業が効率化
耕作放棄地の発生を未然に防止して管理保全を図りながら、集落内の連携が強化されている。



[将来像を実現するための活動目標]

エコファーマー認証者による農産物の栽培・出荷
村内の担い手への基幹的農作業の委託

[活 動 内 容]



集落外との連携

村内の本制度全協定で組織する「 鮫川村中山間協定間協定協議会 」と連携し、水稻の高付加価値化 (エコファーマー) と担い手への農作業委託に取り組む。

4 . 取組による変化と今後の課題等

集落全体として一つのことに取り組む機会が増えたことで、集落共通の目標が作られるようになり、コミュニケーションも活発になった。

めん羊の世話は子どもから高齢者までが参加できるため、新たな繋がりができている。今後もアイデアを出し合い試行錯誤しながらも、様々な取組を進めていきたい。

[平成20年度までの主な成果]

高付加価値型農業の実践 (エコファーマー (1人) 認証取得によるエコ米栽培)
(当初 0 a、目標120a、H20実績164 a)
担い手への農作業委託による作業の効率化 (当初 0 a、目標210 a、H20実績232 a 増加)
めん羊導入による地域コミュニケーションの強化
(H18：めん羊導入 (2頭)、H19：地域づくり研修 (栃木県茂木町)、H20現在：5頭飼養中)
遊休農地の解消
(遊休水田40 a を牧草播種による自給飼料増産)